平 成２７年 度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （東京農業大学第三高等学校・附属中学校 ）

目指す学校像	(1) 生徒の自己（進路）実現を図り、生徒・保護者・地域の期待に応えられる学校 (2) 部活動・特別活動に真摯に取り組む心豊かな生徒を育てる学校

重 点 目 標	1　指導力の向上に努める。 2　私学としての特性を生かし、学校改革に努める。 3　実験・体験・観察を重視する中で、創造的・能動的な学習スタイルを育成し、知識や技能を活用できる生きた学力を育成する。

達成度		
	A	ほぼ達成　（８割以上）
	B	概ね達成　（６割以上）
	C	変化の兆し　（４割以上）
	D	不 十 分　（４割未満）

※ 重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学　校　自　己　評　価

年度目標					年度評価（ 3月末 現在 ）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	全生徒の学力と進学実績の向上のために、全教員の教科指導力・進路指導力・生徒指導力を向上させることを目指して、生徒による授業評価・内外の研修会への参加・研究授業や授業参観・大学入試問題研究等を実施しているが、さらに工夫と努力が必要である。	①　教科指導力の向上 ②　ホームルーム（生活）指導力の向上 ③　進路指導力の向上	①・生徒による授業評価 ・内外の研修会への積極的参加と教職員間での情報の共有 ・授業見学・参観の計画的実施 ・大学入試問題研究の積極的実施と教科指導への活用 ・教職員へのFDの実施 ②・基本的生活習慣の確立 ・学習習慣の確立 ③・進路意識の向上	①・授業改善への取り組み ・研修会への参加と報告内容 ・授業見学・参観数 ・FD評価者による評価 ②・基本的生活習慣全般の評価 ③・進学実績の年度別累計比較	①　教科指導の向上に努力している。 ②　生徒への指導を工夫し努力している ③　国公立・難関私大への合格率向上に努め成果を収めたが、更なる努力が必要とされている。	① B ② B ③ B	①　授業での教授方法改善と授業内容の再検討 ②　生活リズムの改善と家庭学習の定着 ③　進学実績の更なる向上を図る
2	私学としての特性を生かし、学校改革に努める 教育目標や教育内容を再検討し、それらを実施するための課題を総合的に把握して、それぞれの課題を解決しようとしている。	①　受験者数の増加とコースごとの適正な入学者数の確保 ②　教育課程の再検討 ③　進学実績の更なる向上 ④　生徒会活動・クラブ	①　学校の方針・教育内容・特色の理解の徹底と積極的な募集活動 ②　生徒の実力を更に伸ばす教育課程を検討・編成する ③　生徒の進路実現を図り、進学実績を更に向上させる ④　部活動・生徒会活動の自主的活動を支援する	①　受験者数とコースごとの入学者数 ②　新教育課程に基づく教育内容実現の検証・評価 ③　進路目標の設定とその実現方法の検証・評価 ④　部活動・生徒会活動支援についての検証・評価	①　受験者数は増加したが、コースごとの入学者数に関しては必ずしも十分とはいえない。 ②　教育方針・教育内容・新教育課程の検討等を行い、その取り組みについて検証している。 ③　授業力と進路指導力の向上に努力をしている。 ④　自主的な活動を発展させている	① B ② A ③ B ④ A	①　受験者数の増加のみならず、コースごとの適正な入学者数の確保が課題 ②　２８年度から実施される教育方針・教育内容・新教育課程等の実施状況と問題点の確認・検証、更なる検討 ③　生徒の学習意欲の向上と家庭学習の定着、進路意識の向上と進路選択力の育成 ④　生徒全体の意識の向上
3	附属中学校の特色として、机上の学習だけでなく様々な体験・実験・観察を通して学びの本質を追究する「実学教育」をベースに教育活動を実施することを重視し実践している。	実験・体験・観察を重視した科学的・学問的探究の精神・態度の育成	①　「総合的な学習の時間」の一環としての屋上菜園での大豆栽培と醸造体験（味噌作り）、稲作、畜産体験等を実施 ②　博物館研修における調べ学習とプレゼンテーションの実施 ③　理科・社会の授業での実験・社会参加等の実践	①　～③とも 実施状況・内容の検討、生徒の知的好奇心が育ち、能動的・主体的学習姿勢が確立されたかについて検証・評価	①　～③とも 本校の教育活動のベースとして着実に実施し、知的好奇心と探究心を涵養することができた。	① A ② A ③ A	生徒の知的好奇心を刺激するだけでなく、探究心を涵養し、能動的・主体的な学習姿勢の確立に結びつけていくには、基礎的な知識の確実な定着が前提となる。そのためには、「実学教育」と「知識の定着を図る学習」をいかに融合させていくかの工夫と指導力がさらに必要である。